

遠野地域におけるニホンジカ被害の現状及び

地域と連携した被害防止対策の取組

東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署
業務グループ 一般職員 茂木 大佑

1 課題を取り上げた背景

岩手県におけるニホンジカ（以下「シカ」という）は、主に北上山地南部に位置する五葉山周辺に生息していましたが、近年その生息域が急激に拡大しており、シカによる農林業被害も増加、拡大傾向にあります。中でも遠野市におけるシカ被害は特に甚大で、その被害額は岩手県全体の約50%を占めています。また、遠野市北部に位置し、希少な高山植物が多く自生する早池峰山周辺でもシカの目撃情報等が報告されており、希少植生への影響が懸念されています。

このような状況の中、地域住民からシカの有害駆除を求める声が多く寄せられています。そこで当支署では、遠野市をはじめとした関係機関や地域住民と連携したシカ被害防止対策に取り組むこととしました。

2 取組の経過

(1) シカ捕獲支援としての林道除雪

冬期のシカ捕獲を支援するため、平成25年及び26年の1月～3月に、遠野市北東部に位置する琴畑林道の除雪を実施しました。除雪を行うことによって車両での移動が可能となり、効率的にシカを発見し捕獲することができるため、より多くのシカの捕獲が期待できます。



林道除雪の様子

(2) 除雪林道周辺のシカ生息状況調査

シカをより効率的に発見し捕獲するためには、冬期のシカの生息状

況を把握することが重要です。そこで、平成25年2月～4月に、除雪した琴畑林道周辺のシカの足跡調査とセンサーカメラによる撮影を行いました。

(3) 遠野地方有害鳥獣駆除協議会への参画

遠野市や市内の農林業関係者、猟友会等の関係機関で構成されている「遠野地方有害鳥獣駆除協議会」に、当支署は平成25年度より参画し、シカ関連の情報共有や駆除及び防除対策についての検討等を行っています。その中で、林道除雪についての意見や要望を聞き取り、それを踏まえて除雪箇所を決定しています。

3 実行結果

平成25年1月～3月の琴畑林道におけるシカ捕獲数は26頭、平成26年1月～3月は179頭となり、除雪を実施しなかった平成24年1月～3月の捕獲数5頭に比べて大幅に増加しました。

また、シカ生息状況調査の結果、積雪が深くなるに従って出現頻度が低くなる傾向が見られ、積雪深が70cm以上の場所ではほとんどシカは出現しないことが分かりました。この結果を基に、平成26年1月～3月の除雪箇所の見直しを行いました。

4 考察

林道除雪については、狩猟者から引き続き実施を望む声が多く、一定の効果があると考えられることから、今後も継続して実施していきたいと考えています。より効率的にシカを捕獲するため、シカの調査資料や目撃情報等を収集してシカの生息状況を把握し、除雪箇所の更なる検討が必要であると考えられます。

シカ被害防止対策を行うには、関係機関や地域住民等との連携が必要不可欠です。今後、地域連携の環境づくりを進めながら、更なるシカ被害防止対策を地域と一体となって推進していきたいと考えています。